令和6年度 第1回 荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会
議事録

開催日：令和6年11月20日
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館
16階河川会議室

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員長 挨拶
4. 議事
 - 1) 荒川水系河川整備計画の点検について
 - 2) 事業再評価
 - ① 荒川総合水系環境整備事業
5. 閉会

◆1. 開会

<司会>

それでは定刻になりましたので、ただいまより、令和6年度 第1回 荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会を開催いたします。皆様、本日は大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます関東地方整備局河川部地域河川調整官の金子と申します。よろしく願いいたします。以降、着座で進めさせていただきます。

本日の委員会は対面とWEB形式の併用としております。対面参加の皆様はお手元の資料をご覧ください。WEB参加の委員の皆様には事前にお送りしました資料を画面上に表示して、説明させていただきます。委員の皆様には、ご発言の際には、お名前の後にご意見をいただけたらと思います。WEB参加の方は発言の時のみマイクをオンにして頂きますようご協力をお願いいたします。取材される皆様をお願い申し上げます。記者発表にて会議の公開についてお知らせしましたが、カメラ撮りは委員長の挨拶までとさせていただきます。併せて、取材にあたっての注意事項に沿って適切に取材及び傍聴され、議事の進行にご協力いただきますようお願いいたします。また、職員等による記録作成を行っております。ご了承頂きたいと思います。それでは本日の資料を確認させていただきます。配布資料は資料目録のほか、議事次第、委員名簿、荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会規則、荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会運営要領、【資料1】荒川水系河川整備計画の点検について、【資料2-①】荒川総合水系環境整備事業、【資料2-②】荒川総合水系環境整備事業（様式集）、以上となります。資料はお手元にごございますでしょうか。

続きまして委員のご紹介をさせていただきます。対面参加の委員の皆様から委員名簿順に紹介させていただきます。

本日対面参加の委員となります。

埼玉大学大学院 田中委員

政策研究大学院大学 知花委員

河川環境保全モニター 堂本委員

続きましてWEB参加の委員となります。

埼玉大学名誉教授 浅枝委員

東京大学大学院 沖委員

横浜市立大学大学院 鈴木委員

日本大学 手塚委員

東京都立大学 横山委員

東京大学 加藤委員はご欠席となります。

<司会>

それでは、委員会に先立ち、事前に委員の皆様から委員長を埼玉大学 田中委員に行って頂くことで了承を頂いております。田中委員長お願いします。

本日は別室にて一般傍聴希望が1名おります。委員長、別室での一般傍聴を実施してよろしいでしょうか。

<田中委員長>

よろしいと思います。

<司会>

ありがとうございます。では、それでは別室での一般傍聴を実施いたします。

◆2. 挨拶

<司会>

続きまして議事次第2に移ります。河川部河川調査官の内堀より挨拶をさせていただきます。河川調査官、よろしくをお願いします。

<内堀河川調査官>

おはようございます。関東地方整備局河川部河川調査官をしております、内堀でございます。本日はよろしくをお願いします。本日はお忙しいところ令和6年度 第1回 荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。また平素より国土交通行政にご理解ご協力を賜りまして感謝申し上げます。本委員会は、荒川水系における河川整備計画の点検及び河川整備計画に基づき実施しております、事業の再評価等につきまして、有識者等の皆様からご意見、ご審議を賜る場として設置させていただいているものでございます。

最近の荒川につきまして、少しお話をさせていただきますと、気候変動を踏まえた新たな計画へと見直したいということで、荒川水系河川整備基本方針変更に向けた審議を進めさせていただいております。田中委員長にもご参加いただきまして、社会資本整備審議会河川整備基本方針検討小委員会において、九月と十月の二回審議が行われまして、今後、河川分科会に報告される予定となっております。本日の荒川水系河川整備計画の点検と荒川総合水系環境整備事業の再評価でございますけれども、河川整備計画の点検に当たっては、前回、令和4年度に実施したところでございます。その令和4年度以降、取り組んでおりますことについてご説明をさせていただきたいと思っております。また、環境整備事業につきましては、これま

でも整備を行っているところでございますけれども、今回、新たに埼玉県の上尾市かわまちづくりということで、新規の箇所でございます。東京都の板橋区かわまちづくりでは事業費の増など重要な変化がございましたので、この2点で事業再評価を実施させていただきたいということで考えております。本日は限られた時間となりますけれども、引き続き、荒川の河川整備について、適切かつ着実に進めていければと思っておりますので、忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、よろしくお願いいたします。

<司会>

ありがとうございます。続きまして、議事次第 3. 委員長挨拶としまして田中委員長よりご挨拶をお願いします。

◆3. 委員長 挨拶

<田中委員長>

荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会委員長を務めさせていただきます埼玉大学の田中です。よろしくお願いいたします。

本日の議事は、先ほど内堀調査官からお話がありましたように2つあります。1つは令和4年度以降の事業の進捗について確認し、今の河川整備計画の元で計画していくのが良いかどうかを審議いただくということと、2つ目は荒川総合水系環境整備事業の現在の対応方針も含めて確認していただく、ということになります。令和4年以降の社会情勢の変化については、先ほど河川調査官からもお話がありましたように、大きく二つありまして、気候変動に関連して日本全国で河川整備基本方針の見直しが検討されていて、将来的にどう取り入れていくかというのは、今後の議論にはなるかと思いますが、荒川もその一つとして今検討しているところです。河川環境に関しても大きな流れがあり、国際的な目標であるネイチャーポジティブや、その政策の先にある30by30等の生物多様性に資する国際的な目標がある。その中で河川の流域とか河川空間でどれだけ生物の生息・生育・繁殖の場を増やしていくかといった話が出てきていて、今年5月には、定量的な目標値を定めるという提言が出ています。これもまだまだ試行錯誤の段階でして、すぐ河川整備計画に定量的な値として組み込まれるという状態ではなく、研究レベルでいろいろやっている最中だと思いますので、今後考えていく必要があります。これらのことも背景に入れて、我々は考えていかなければならないと思っております。そういう意味で今日はこの二つの事について忌憚のない意見を頂いてより良いものになるようになればと思います。

<司会>

はい、ありがとうございました。では、取材されている皆様にお伝えいたします。誠に申し訳ございませんが、カメラ撮りはここまでとさせていただきますので、ご協力をお願いします。

それでは、続きまして議事次第4. 議事に入ります。委員の皆様にお願いがございます。ご発言の際は、マイクをオンにし、お声がけ下さい。委員長からの指名の後、お名前の後にご発言をお願いいたします。これからの進行は田中委員長をお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

◆議事 1) 荒川水系河川整備計画の点検について

<田中委員長>

それでは議事次第4. (1) 荒川水系河川水系河川整備計画の点検についてお願いします。

<石田河川計画課長>

それでは資料の説明をさせていただきます。河川計画課長の石田でございます。よろしくお願いたします。右上に「資料1」とある「荒川水系河川整備計画の点検について」をご覧ください。整備計画の点検ということで説明させていただきます。

1 ページです。河川整備計画は、社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映できるよう、適宜その内容について点検を行い、必要に応じて変更するものと定められています。また、河川整備計画の本文内にも、必要に応じて本河川整備計画の見直しを行う旨、記載しております。左側に点検の視点、右側に現在の河川整備計画の内容について、図にまとめられているところです。

続いて2 ページをご覧ください。整備計画の点検について赤枠で示されており、点検の結果により必要に応じて変更の検討を行うこととされています。

続いて3 ページです。流域の概要ということで、荒川水系の説明になりますけれども、甲武信ヶ岳から埼玉県・東京を経て東京湾に流れ込む一級河川となっております。特に人口が密集している我が国の中枢となる区域を流下しております。

続いて4 ページをご覧ください。流域の社会情勢の変化ということで、ご説明させていただきます。左上に荒川の安全の水準ということで、年超過確率が概ね 1/30 から 1/40 にとどまっているということを記載しております。また、堤防断面や河道断面が不足しておりまして、計画高水流量を安全に流下することができない状況でございます。また、道路橋や鉄道橋が架かっており、その内、計画堤防高と比べて桁下高の低い橋梁や橋梁周辺部の低い堤防が治水上の弱点となっております。この問題を解消するための事業としまして、現在、京成本線等の橋梁架替等を行っている状況でございます。また、下流部においては、河川の堤防が決壊する場合、ゼロメートル地帯が含まれ、甚大な被害が発生する可能性が非常に高いため、計画規模の洪水を対象とした治水対策とあわせて、超過洪水対策を実施しているところでありまして、ページ右側に移りまして、荒川に係る洪水調節施設でございまして、上流部の3ダムと荒川第一調節池が完成しており、現在、第二・第三調節池の整備を進めるとともに、第四調節池についても河川整備計画上では検討を実施しているところです。右下に移りまして、計画規模を上回る洪水等に対して被害を軽減するための施策について記載がございます。後ほど紹介しますが、東日本台風における被災の状況について記載がございます。

続いて5 ページをご覧ください。左側は河川の水利用に関する記載がございまして、荒川の水は、農業用水や首都圏の都市用水等種々の目的で多くの人々に広範囲に利用されており、これまでに整備された複数のダムを一体的に運用するダム群の統合管理により、効果的・効率的な低水管理を実施していることが記載されてございます。右側の水質ですけれども、おおむね環境基準を満足しているものの、中流部の一部の支川等においては、生活排水等の影響により環境基準値を満足していない、という状況でございます。自然環境について、自然再生事業によりまして湿地等の良好な自然環境の保全・創出に取り組んでおりまして、荒川を軸としてネットワークの構築を進めております。また、外来植物として、ナガエツルノゲイトウのといった特定外来生物の繁茂についても記載がございます。右下、河川空間の利用ですけれども、全国でも有数の利用の多い河川であることが記載されてございます。

6 ページをご覧ください。維持管理の内容について、河川管理施設の種類に応じた、広範・多岐にわたる管理について、効果的・効率的に行っていくことが必要であります。また、異常が確認された場合には補修等を行う必要があることについて記載がございます。左下に移りまして、水門15箇所や閘門・樋門等の施設が多数ございますので、これらの機能を確保するために定期的な点検、維持補修等を行っていることが記載されてございます。右側に移りまして、全国的な課題ということで、平成27年9月関東・東北豪雨以後の対応や今後取り組むべき課題として、気候変動対策の推進、首都直下地震について記載してございます。

7 ページをご覧ください。荒川の改修の経緯について記載がございます。明治 43 年の大水害を契機として、明治 44 年に「荒川改修計画」から始まった旨の記載がございます。その後、計画高水流量の改定、昭和 22 年のカスリーン台風、昭和 33 年の狩野川台風による被災があったことが記載されてございまして、昭和 40 年に河川法の改正にあわせた工事実施基本計画の策定やその後の改定について記載がございます。右側に移りまして平成 9 年の河川法改正を受けまして、平成 19 年の河川整備基本方針の策定、平成 28 年の河川整備計画の策定、その後、令和元年東日本台風の被災を受けまして令和 2 年に整備計画が変更された旨、記載してございます。

続いて 8 ページをご覧ください。過去の代表的な洪水について記載してございます。左上に図が入ってございますが、令和元年東日本台風による堤防が決壊した状況を掲載してございます。この際、直轄区間で 5 箇所が決壊してございます。この他、平成 11 年 8 月の熱帯低気圧による被災ですとか、昭和 22 年のカスリーン台風、明治 43 年の台風についてまとめてございます。被害状況については右側にまとめてございますのでご覧ください。

9 ページをご覧ください。令和元年東日本台風により、入間川の菅間地点においては、流域平均 3 日雨量で 417mm を記録し、平成 11 年 8 月洪水に匹敵する大雨となっておりまして、各洪水調節施設において、その効果を発現しておりましたが、荒川中流部では無堤部から溢水する等、浸水被害が発生し、特に入間川等支川においては 5 箇所決壊しております。入間川等支川では、河川整備計画の目標流量を上回ったため、河川整備計画を令和 2 年に見直すこととなりました。

10 ページをご覧ください。流域の社会情勢の変化ということで、岩淵地点における年最大流量と年最大流域平均雨量をまとめております。年最大流量の 1 位は、昭和 22 年カスリーン台風の 11,900m³/s ですが、令和元年東日本台風の際はそれにせまる約 11,500m³/s となっております。また、雨量につきまして申しますと、カスリーン台風 437mm に対し、令和元年東日本台風ではそれを上回る 446mm となっております。

11 ページをご覧ください。支川入間川の菅間地点においても同様に年最大雨量と年最大平均雨量をまとめてございまして、カスリーン台風に次ぐ流量ですとか、それを超えるような雨量が観測された旨記載しております。

続いて、12 ページをご覧ください。荒川における近年の渇水では、平成 29 年 1 月～6 月の荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量が平年の約 6 割程度と過去 4 番目に少なく、取水制限率 10%～20%の取水制限が 7 月 5 日から 8 月 25 日まで 52 日間継続しておりました。荒川水系の場合は、3 ダムと調節池が既に整備されてございますけれども、仮に滝沢ダムがなければ平成 29 年の取水制限日数は、40 日長い約 3 ヶ月間継続していたと推定されました。

13 ページをご覧ください。近年の荒川水系の水質についてまとめてございます。BOD75%で評価しますと、おおむね環境基準を満足しておりますが、中流部の一部の支川等においては、生活排水等の影響により環境基準を満足していないことが記載されております。

続いて、14 ページでございます。地域の要望事項についてまとめております。荒川のさいたま築堤工事及び中流部改修の促進や無堤防区間の溢水対策を早期に図ることや荒川第二・三調節池他整備等治水事業や JR 川越線橋梁を含めた荒川堤防の早期完成、京成本線荒川橋梁の架替工事事業の推進についてご要望をいただいております。また、入間川流域緊急治水対策プロジェクトにより、多重防御治水の推進及び減災に向けた更なる取組みの推進を図ることについてもご要望を頂いております。また河川環境の整備と保全に関する要望や減災・危機管理対策に関する要望についても頂いております。

続いて、15 ページをご覧ください。整備計画の目標と完了した整備及び現在整備中の主な箇所について記載してございます。治水の目標につきましては、荒川本川は昭和 22 年カスリーン台風と同規模の洪水、入間

川等支川については令和元年東日本台風と同規模の洪水が再び発生しても災害の発生の防止又は軽減を図る、ということで記載してございます。続いて利水の目標につきましては、寄居地点でかんがい期は概ね 23m³/s、非かんがい期は概ね 9m³/s、秋ヶ瀬取水堰地点では年間を通して概ね 5m³/s を安定的に確保すること、としております。環境については、治水、利水及び流域の自然環境、社会環境との調和を図りながら、河川空間における自然環境の保全と秩序ある利用の促進に努める、といった目標が記載されてございます。左側の表がございまして、平成 28 年 3 月の河川整備計画策定以降、これまでに完了した堤防整備、橋梁部周辺対策、浸透・侵食対策等をまとめてございます。堤防整備をみていきますと、整備計画延長約 80km に対して整備済み延長は約 11.7km で、整備率は 15% となっております。整備中の主な箇所ということで、破線で囲みをしております。こちらについては、第二、第三調節池の進捗状況として環境影響評価の手続き完了ですとか、JR 川越線荒川橋梁改築工事に係る基本協定の締結、また、周囲堤、囲ぎょう堤の工事に着手した旨記載してございます。

入間川については次ページにてご説明いたします。

続いて、16 ページをご覧ください。入間川流域緊急治水対策プロジェクトの状況となっております。令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、再度災害を防ぐことを目標に、令和 7 年度までに河道掘削、堤防整備等を実施し、また、遊水地整備を進めていきます。右側の方に目標と進捗状況についてまとめてございまして、入間川におきましては河道掘削や樹木伐採等は既に完了している状況でございます。また、越辺川・都幾川の進捗状況についても記載ございまして、越辺川におきましては、堤防整備は 100%、河道掘削・樹木伐採は 44.5% まで進捗している状況です。都幾川については堤防整備が 48.2%、河道掘削が 56.2% の進捗状況でございます。遊水地整備は現在、調整を進めてございまして、都幾川については、用地取得等について進行しているところでございます。

続いて 17 ページをご覧ください。洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項としまして、堤防整備箇所と河道掘削箇所の例をあげてございます。

また、18 ページでは京成本線荒川橋梁の橋梁架替と、羽根倉橋の橋梁部周辺対策の整備事例をあげてございます。

19 ページをご覧ください。洪水調節容量の確保ということで、荒川第二・三調節池の整備と、越辺川遊水地、都幾川遊水地の整備について記載してございます。左側、現在事業を行っております、第二・第三調節池については、囲ぎょう堤・仕切堤や排水門整備の施工をしている状況を掲載しております。また、右側にお示ししておりますとおり遊水地の整備について、詳細な調査及び検討を行いつつ関係機関との調整を進めているところでございます。

20 ページをご覧ください。浸透・侵食対策、高潮対策についてまとめております。左側は浸透・侵食対策ということで、治水橋付近での整備事例をあげております。高潮対策ということで中堤の改良を行っている状況を示しております。

21 ページをご覧ください。超過洪水対策として足立区小台一丁目の高規格堤防整備を例としてあげております。右側は地震・津波遡上対策、施設の耐震対策として旧芝川排水機場樋管の耐震対策を例としてお示ししてございます。

22 ページをご覧ください。地震・津波遡上対策の事例としまして、東砂地区で整備されました、堤防のかさ上げ及びコンクリート張りをあげております。右側は内水対策といったところで排水能力の増強等による内水被害の軽減対策について記載してございます。

23 ページをご覧ください。緊急復旧活動、水防活動等を円滑に行う拠点等の整備を行うということで、緊急用船着場の整備の実施事例を示してございます。

24 ページをご覧ください。流水の正常な機能の維持ということで、河川の適正な利用及び流水の正常な機

能の維持を図るため、関係機関と連携した水利用の合理化を推進しつつ、地球温暖化に伴う気候変動の影響への対応等について、関係機関と調整を行い調査及び検討を行うといったところで、平成29年の渇水時のダム補給状況について記載してございます。

25 ページをご覧ください。水質保全対策として、選択取水設備を整備し、ダムからの冷・温水や濁水の放流による下流河川における環境への影響抑制を実施しております。また、右側に移りまして、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全として、エコロジカルネットワークの形成のための整備、また、地域の活性化を推進するといったところで取組状況について記載してございます。

26 ページは動植物の生息・生育・繁殖環境の保全ということで、荒川太郎右衛門地区におけるアレチウリ駆除活動、右側では北区におけるナガエツルノゲイトウの駆除活動の事例を掲載してございます。右側に移りまして、人と河川との豊かなふれあいの確保に関する整備といたしまして、水辺空間の整備状況と利用状況についてまとめてございます。令和元年については東日本台風の影響により、利用者数が減少しております。

27 ページをご覧ください。堤防や河道、河川管理施設の維持管理についてです。左側、堤防の機能を維持していくために、変状や異常等の早期発見を目的として、堤防除草や点検巡視の実施、管理用通路等の適切な維持管理を実施しています。また、河道については、点検、巡視、測量等を行い、河道形状の把握に努めています。左下はそれらの事例としてお示ししております。また、右側に移りまして、河川管理施設の維持管理として、巡視等を行いまして施設の状態把握に努める旨記載しております。

28 ページをご覧ください。ダムの維持管理ですとか、洪水調節池の維持管理についてまとめてございます。

29 ページをご覧ください。治水・利水・環境の観点から、河川を総合的に管理していくために、河川の水位や流量等の観測について基礎的な調査等を行っている状況について記載しております。また、右側に移りまして、荒川中流部は広大な高水敷や横堤を有しているということで、その水理現象は非常に複雑となっております。これについて水理情報の収集は必要不可欠ということで、課題に対する対応として下に記載がございました。従来の浮子観測では精度確保に限界がある箇所においては、水文観測の高度化に取り組み、現地状況に即した観測所の配置計画など検討し、精度向上に努める、といったことが記載されてございます。

30 ページをご覧ください。地域における防災力の向上ということで、「大規模氾濫減災協議会」の取組等について記載してございます。WEB 会議による協議会の開催状況や沿川自治体の避難所開設運営訓練の実施状況についてまとめております。

31 ページをご覧ください。先ほど確認しました事業の進捗によりまして、どのように流下能力が向上したかということをご説明させていただきます。図の見方としまして、左側に流量配分図がありまして、こちらが赤枠で囲んでいる箇所について右側の流下能力図でお示ししております。流下能力図の上2つが事業着手時、下2つが現時点で、平成28年時と令和5年の対比となっております。左側が上流、右側が下流となっております。この区間におきましては岩淵地点で目標6,200m³/s、小名木地点で6,800m³/sとなっており、それに向けて整備を進めている状況になります。上下で図を見比べていただきますと、下側の図の右岸側で緑が青に変わっておりまして、流下能力が向上していることをお示ししております。

続いて、32 ページをご覧ください。荒川本川の28.8k~89.4kの流下能力図の事業着手時と令和5年の対比です。現時点で、入間川合流点付近まで橋梁部周辺以外の堤防は概ね完成している状況で、左岸側を見比べてみますと、緑が青に変わっているところがあり、流下能力の向上が示されてございます。

続いて33 ページは入間川の流下能力図をお示ししておりますが、割愛させていただきます。

34 ページが越辺川、35 ページが高麗川です。

36 ページの都幾川ですが、R2年とR5年の対比により、右岸側で流下能力の向上が確認できます。

37 ページの小畔川につきましては割愛させていただきます。

38 ページをご覧ください。事業の進捗状況、効果事例をご説明いたします。こちらは、羽根倉橋から開平橋の区間において、平成 17 年度より、さいたま築堤事業を実施してまいりました。整備イメージ図をご覧ください。もともと下段盛土がありましたが、平成 30 年 8 月に上段盛土が完成しました。その翌年台風 19 号が発生したという状況でございまして上段盛土を実施したことにより越水を防ぐことができました。

39 ページをご覧ください。現在実施しております、入間川流域緊急治水対策プロジェクトの効果発現について、でございます。平成 29 年 10 月洪水では都幾川の野本水位観測所で避難判断水位を超過したという事例がございました。真ん中に 2 つグラフがある内の左側のグラフをご覧ください。平成 29 年避難判断水位を超過していましたが、令和 6 年の台風第 10 号による出水の際は、下流の越辺川で実施した河道掘削と樹木伐採が効果を発現したと考えてございまして、グラフ右側を見ますと、雨量は平成 29 年と同程度だったのですが、避難判断水位よりも大きく低下してございまして、当時と比較いたしますと 1.1m 程度低下しており、深夜の時間帯での高齢者等避難の発令を回避することができたと考えてございます。

40 ページをご覧ください。中流部においては湿地環境の整備を実施してございまして、この周辺でコウノトリ等の大型の鳥類の飛来を目標としてございます。整備前の写真がございまして、浅い水場や深い水場等を生成することを目標としてございます。現在の事業実施状況としまして、河道掘削の状況を真ん中に掲載しておりますが、盤下げによる湿地環境の再生を進めてございます。

続いて、41 ページをご覧ください。荒川下流部における河岸再生で整備前と整備後の写真を載せています。航走波によりヨシ・干潟が侵食され、水際の植生面積が大きく減少していますが、消波施設により水際のヨシ原や干潟の保全・再生を可能とするために整備を進めている状況でございます。

42 ページをご覧ください。荒川放水路通水 100 年についてまとめたものです。現在の荒川の下流部は、大正 13 年に荒川放水路ということで整備されておまして、今年ちょうど通水から 100 年の年にあたります。大正 13 年 10 月 12 日の荒川放水路の通水から 100 年となり、これを記念して、沿川市区の首長等による「荒川放水路サミット」を令和 6 年 10 月 12 日に開催し、「荒川への思い」、「今後 100 年の荒川放水路の未来」をテーマに意見交換しました。また、沿川自治体代表者等をお招きした「荒川放水路見学会」、市民向けイベント「アニバーサリーフェス」を並行開催しました。これを開催するにあたり、令和 5 年 5 月に沿川自治体、東京都、埼玉県及び荒川下流河川事務所で構成される「荒川放水路通水 100 周年記念事業実行委員会」、令和 4 年 10 月に荒川下流管内で活動する市民団体で構成される「市民実行委員会」を立ち上げ、官民で協力してロゴマーク、キャッチコピー、イベントカレンダーの作成、関連イベントの実施などの取り組みについてまとめてございます。

43 ページをご覧ください。事業の進捗の見通しについて、社会経済の中核を担う地域でございまして、洪水、津波、高潮等による災害から貴重な生命財産を守り、住民が安心して暮らせるよう、河川整備を推進するという考えを記載してございます。同様に下流部の堤防は概ね完成している旨を説明してございますが、高潮区間及び橋梁部等の堤防の断面が一部不足している箇所については引き続き、堤防整備を実施し、河道掘削についても推進して参ります。また、洪水の安全な流下の阻害となっている京成本線荒川橋梁の架替や、荒川第二・三調節池の整備、また、入間川合流点付近より上流の堤防整備・河道掘削についても推進していく旨、記載してございます。

右下に費用便益分析の結果についてまとめてございまして、B/C は全体事業で 24.0、残事業で 23.6 ということで前回の資料から載せてございます。また、環境については後ほど詳細の説明がありますので割愛させていただきます。

44 ページでは、事業進捗と併せてコスト縮減の取り組みとして、地盤改良工法の変更や、建設発生土の有効活用によりコスト縮減を図っており、右下では市民との協働による取組によってコスト縮減を図っている

ことや、引き続き、コスト縮減に努めていくことを記載しております。

45 ページをご覧ください。河川整備に関する新たな視点ということで、「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」に関する内容をまとめております。また、「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言の改訂版が公表されまして、荒川水系では、基本方針について気候変動を踏まえ新たな計画へと見直すため、社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会において、審議を行ってきたところでございます。

46 ページからは流域治水プロジェクトについてまとめてございます。令和2年7月にとりまとめられました「気候変動を踏まえた水害対策のあり方」答申では、これまで進めてきた「水防災意識社会」の再構築の取り組みを一步進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえてあらゆる関係者が協働して流域全体で対応する「流域治水」への転換を進めることが示されております。さらに、気候変動の影響により、当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取り組みを加速化・深化させるために必要な取り組みを反映した「流域治水プロジェクト2.0」に更新されております。

48 ページはグリーンインフラについてまとめたものでございます。

49 ページをご覧ください。河川整備に関する新たな視点として、今後取り組むべき課題としてネイチャーポジティブについて記載してございます。令和6年5月にとりまとめられました、「生物の生息・生育・繁殖の場としてふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」提言を踏まえて、ネイチャーポジティブを実現する川づくりを進めていくことで考えてございます。

50 ページをご覧ください。令和6年9月より、社会資本整備審議会 河川分科会 河川整備基本方針小委員会において、荒川水系の河川整備基本方針について、気候変動を踏まえた新たな計画へと見直すための審議を行っております。そこでは基本高水流量の変更として岩淵地点で現行14,800m³に対し、変更後は15,800m³、その内訳として河道配分を変えず洪水調節流量について増やすこととしています。

51 ページは、流域治水の取り組みを推進することを目的として、荒川水系荒川及び入間川流域で公表している「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」をまとめたものでございます。

52 ページ、埼玉県では、令和6年5月28日に県管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ及び多段階の浸水想定区域図を公表しており、令和6年11月18日には国・県重ね合わせの水害リスクマップ及び多段階の浸水想定区域図を公表されています。

53 ページ、河川整備計画の点検結果です。整備計画策定後、令和元年東日本台風を受けまして、第1回の点検の際には新しい治水計画を検討する必要があるといったところで、令和2年度に整備計画の変更を行っております。令和3年に第2回の点検、令和4年11月に第3回の点検を実施しまして、本日、第4回の点検をいただいているといったところでございます。

点検を踏まえ、今後の方針としては前回の点検から変更なしと考えております。説明については以上でございます。

<田中委員長>

では、ご意見がある方は挙手いただくか、ご発言をお願いします。

<沖委員>

高潮堤について、中川荒川の中堤は、いざとなれば壊れても高速道路以外への影響は無いと思われませんが、なぜ実施するのでしょうか？

<石田河川計画課長>

中川においては、荒川の中堤により一度高潮が抑えられるということを前提に中川の堤防が設計されており、これが無いと市街地への浸水が想定されますので、治水上必要なものです。

<沖委員>

高潮は、中川、荒川とも同じように遡上するのではとも思いますが、わかりました。

<菊田荒川下流河川事務所長>

中川と荒川では川幅が異なることから、海岸側から進入してくる高さが異なります。中川の左岸堤の高さは、中堤での減衰効果も踏まえ高さを決めさせていただいています。

<沖委員>

了解しました。

<沖委員>

39 ページ目ですが、立ち上がりの水位が下がっているのでバックウォーターの影響がなくなったと思われる、治水面は良いかと思いますが、河川環境では掘削前の方が生態系が豊かであつと思われそうですが、地元からの評価は如何でしょうか。

<村田荒川上流河川事務所長>

ご指摘のとおり、河川環境と治水の両立は重要なことだと認識しております。この箇所については、治水上、樹木伐採・河道掘削がどうしても必要な箇所ということで実施させていただきましたが、その他の箇所については必要最低限の範囲になるようにし、なるべく環境を変えないようにしているところです。地域からは、今年の台風の時にも目に見えて効果が出ているということで評価をいただいております。

<堂本委員>

河川環境保全モニターということで、要所要所において環境面でご指摘させていただいているが、各エリアでどういった環境を目指すのか、また、河道内で砂礫河原や樹林環境をどのくらい残せば、流域としての生物多様性を確保できるか、事務所や市民団体も含め、厳しいやりとりもしながら、問題意識を持って取り組んでいると思います。

<浅枝委員>

相模川で樹林化が進行しておりますが、荒川は土砂移動が流下方向ではなく横方向になっており、二極化が進んでいると思われそうです。

高い箇所に生える木は、水際に生える木でなく陸生の木が生えてしまっている。オオタカの飛来などプラス面はあるが、本来生えてほしいヤナギ等でない木が生える。掘削は良いが、目標をどう立てているかを伺いたいと思います。低くするとヤナギが生えるので良しとするか、断面確保との兼ね合いもあり、否として後から木を切るのか。どうするものか確認したいものです。

<田中委員長>

本来生えるべき樹木を目指すのか、成長したら伐採するかなど将来の管理方針として、どう考えるかとい

うことでしょうか。

<浅枝委員>

横向きの土砂移動、これは自然に近いが、洪水対策で断面が足りないことは問題で、ここに生えるべき植物なら良しとするか、種は考えずとにかく断面を確保することを重視するかということです。

<村田荒川上流河川事務所長>

現時点で具体的な計画を持っているわけではありませんが、河川全体として見たときに、どこを残していくのか、決めていかなければならないと考えています。また、河川環境についても定量目標を定めていくという動きもありますので、今後検討していきたいと思えます。

<田中委員長>

樹木は時間が掛かるので、今後議論していくのでしょうか。経過観察などから検討する、ということによろしいのでしょうか。

<浅枝委員>

樹林、草地というレベルではなく、どういう種かということを考えていただければ良いと思えます。

<堂本委員>

かつて治水事業でビオトープを整備した場所があり、今回の治水対策プロジェクトで手を付けたというところがありました。そのあとの状況を見極めて今後どうするか、市民団体、有識者とともに方針を立てているところです。

<横山委員>

P46 から、流域治水、グリーンインフラ等重要な説明となっていますが、一方で、流域治水の中でグリーンインフラ、さらにネイチャーポジティブとあり、何が異なるか少しわかりにくいので1枚くらいに集約し、例えば45 ページのように分かりやすくしてもらえると、将来の議論がより深まると思えます。

<石田河川計画課長>

資料についてわかりやすくするよう考慮します。グリーンインフラとネイチャーポジティブなどについて、何が違うかなど記載方法について工夫します。

<横山委員>

環境省ではEco-DRR などの用語もあったり、様々な用語が飛び交っているので、国交省としてどう取り入れて流れを作っていくか、用語間のつながりや政策との関連など整理いただくと良いと思えます。

<田中委員長>

グリーンインフラの方が水利用や環境学習など概念としては広く、ネイチャーポジティブは生物多様性など新たに創出していくそれぞれが兼ねている部分とそうでない内容でもあるので、ベン図などで示すと良いと思えます。

<知花委員>

三点ご検討いただきたいことを意見させていただきます。

一つ目、河川整備基本方針の変更の議論が進んでいるということで、流量の変更等が生じると思うので、今後整備計画の変更についても検討を進めていただきたいと思います。

二つ目、44 ページコスト縮減について、昨今の環境に対する潮流のなかで、例えば Co2 をどれだけ削減できたかなど、新工法等を取り入れることで、コストだけでなく環境面にどのようにプラスが出るのかも検討いただきたいです。

三つ目、流域治水に関して、多段階の浸水想定図等について記載はありますが、先日土木学会において提言のあった、流域内にどれだけ降雨があったか、それを流域内にどう分配するか、など流域全体の水収支という点も今後検討していただきたいと思います。

また質問ですが、気候変動の影響により高潮で潮位上昇が見込まれますが、これに伴い、荒川の HWL はこのままでよいのか、もしくは検討が必要か、を確認させていただきたいです。

<石田河川計画課長>

ご意見のあったことについては、引き続き検討していきたいと思います。

高潮については東京都において検討していることは承知しており、現在情報共有しているところです。高潮の計画が変わりましたら、河川の計画にも反映することを前提としています。

<堂本委員>

基本方針・整備計画において、事業の中でネイチャーポジティブを実施、河川環境の目標も定量化するという動きになっているが、次の計画まで待てない、という意見もあります。例えば広範囲での事業をしている荒川第二・第三調節池事業については、治水だけでなく、環境が向上することについても期待されています。河川整備計画の見直しにあたっては、環境の向上の方向性や取組など示していただくようご検討いただければと思います。

<内堀河川調査官>

治水と環境を一体として進めていければと思います。整備計画の変更にあたっては、基本方針の変更の状況や、皆様のご意見も踏まえて進めてまいりたいと思います。流域全体の水収支については、荒川のみならず検討が必要ですが、手法については確立していないこともあり、今後有識者の皆様のご意見も伺い、技術的な進捗もはかりながら検討を進めてまいりたいと思います。

<浅枝委員>

水収支とともに土砂収支についても、荒川は勾配が緩く細かい砂分が多いという気もしますが、樹林化などの懸念はある。洪水の影響は長く続かないが、土砂による影響はずっと続くため、今後、整備計画ではどう考えていくのでしょうか。

<石田河川計画課長>

現状では十分な記載は無いと思われませんが、今後改定にあたり、土砂収支の関連についても記載していきたいです。

<浅枝委員>

洪水は短期間、土砂は長期に及び環境への影響が大きいので、良いビジョンがあれば安心できるので、検討をお願いしたい。

<内堀河川調査官>

荒川に限らず、総合土砂管理が必要なことは認識しています。調査も含めてどういう視点で実施するかは、今後ご協力いただきたいと思います。

<田中委員長>

多くの意見が出ましたが、ネガティブなものではなく、より良く、というご意見だったと思います。現計画について引き続き進めることでよろしいでしょうか。

<委員全員>

よい。

◆議事 2) 事業再評価

<田中委員長>

それでは続きまして、次第 4. 2) 事業再評価 荒川総合水系環境整備事業の審議に入ります。事務局から説明をお願いいたします。

<藤原河川環境課長>

河川環境課長の藤原と申します。荒川総合水系環境整備事業の再評価について説明させていただきます。

1 ページです。1. はじめに、としまして今事業評価を実施している理由としては、新たに整備箇所を追加したためです。具体的には上尾市のかわまちづくりを新規追加しました。また、継続中の事業において事業費を見直した結果、増額が発生した板橋区のかわまちづくりの再評価を実施させていただくことになっております。今回の再評価においては、継続箇所と新規箇所の評価になります。

2 ページになります。総合水系環境整備事業について、令和 4 年度に実施する事業評価から、事業計画の変更により個別完了箇所の評価を実施した箇所については、評価対象として計上しないとする、としております。今回は個別箇所の完了箇所はございません。

3 ページは、先ほどの整備計画の点検の中で説明がありましたので省かせていただきます。同様に 4 ページも省かせていただきます。

5 ページの流域の社会情勢の変化ということで、環境関係も地域の協力体制・関連事業との整合性ということで、こちら先ほど紹介がありましたが、関東エコロジカルネットワークということで、関東地方ではコウノトリをシンボルとした取り組みを実施させていただいております。この取り組みによって、今年関東地域内で新たにコウノトリの雛が 19 羽誕生しております。また、中段目の荒川流域エコネット地域づくり推進協議会、その下に記載のミズベ・グリーンコミュニティとして、地域と協働してこのような取り組みを実施させていただいてるというご紹介になります。

6 ページです。こちらはかわまちづくり支援制度ということで、今回再評価でご審議いただく内容となり

ますが、先ほど説明させていただいたとおり、板橋区において令和3年度にかわまちづくりの登録をいたしまして、現在計画を推進している状況となっております。また、今年度新規で上尾市のかわまちづくりとして、令和6年8月8日付けで支援制度に新たに計画が登録され、今後これらの取り組みを実施する予定となっております。後ほど詳細の内容については説明させていただきたいと思っております。

7ページも先ほどの整備計画の点検の中で一部説明がありましたので、7ページ、8ページの説明を割愛させていただきたいと思っております。

9ページをご覧ください。社会情勢の変化での河川の利用状況ということで資料を提供させていただいております。棒グラフがありまして、河川空間の利用者の推移として、左側が利用形態別、右側が利用場所別となっております。荒川は河川利用が盛んに行われておりまして、年間平均で約2300万人の方が利用されているという状況になっています。グラフをご覧くださいと令和元年度に数値が落ち込んでおりますが、こちらについては令和元年東日本台風の影響によって、グラウンドなどが使用不可となったことから大きく利用者の数が減少している状況となっております。

10ページになります。こちらからが評価対象にさせていただいている事業の目的と計画の概要をお示しさせていただいております。今回荒川水系においては、自然再生事業は現在2箇所を継続で実施させていただいております。水辺整備事業については1箇所の継続事業と、今回新規で箇所の追加をさせていただいております。こちらの内容については、以降のページで詳細に説明させていただきたいと思っております。

11ページをご覧ください。こちらは自然再生事業の荒川中流部地区という地区の実施内容となっております。先ほど整備計画の点検の中でも一部ご紹介がありましたが、環境事業の方でコウノトリ、サギなどの大型鳥類が飛来するような湿地環境の創出ということで、高水敷の掘削を実施させていただいております。具体的な整備内容としては湿地環境の再生ということで、全体計画として57万m³の掘削を予定しており、令和5年度末で12.4万m³実施済みでして残が43.6万m³という状況で、現在この事業は継続して実施しているということです。また、併せて堤内地と堤外地を結んでおります水路で、本川に合流する部分で落差がありましたので、落差の解消ということで計画では2箇所予定しており、1箇所の整備が完了している状況となっております。こちらの事業については計画内容に変更はございません。

12ページになります。こちらも自然再生事業の荒川下流地区の整備内容となっております。こちら先ほど整備計画の点検の中で一部ご紹介させていただいた内容となっておりますが、荒川下流部に形成されておりますヨシ原・干潟は多様な動植物が生息・繁殖する貴重な自然空間であることから、現存するまとまった自然地を保全するとともに、新たな自然地を創出する自然再生事業を進めている状況になっています。整備内容としましては、消波施設、緩傾斜河岸ということで全体28箇所を計画しており、令和5年度末で20箇所の整備が完了しております。残が8箇所となっております。具体的な整備内容については、説明が重複しますが、船の波によって河岸の侵食しているところに木工沈床を設置し、消波施設として河岸の保全を図ることでヨシ原・干潟の保全再生をする形で整備を進めており、こちらの事業については現在継続事業ですので特に内容の変更はございません。

13ページになります。水辺整備という事業になっています。箇所の具体的な名称については、板橋区かわまちづくりということで、こちらは賑わい創出として地域と連携して整備を進めている事業になっており、具体的な整備内容については、連絡通路と階段の整備ということで、堤内地と堤外地を結ぶ連絡通路の整備を実施しているところで、こちらの連絡通路を結ぶことによって、川までの動線を確保するというのと、災害時において、浸水想定水位以上にある背後地の陸上競技場から、直接堤防へ結ぶ通路が整備がされますので、浸水区域外への避難として活用する予定でおります。全体の整備計画としては現在通路の整備を実施中です。その他、遊歩道の整備等は未実施であり、今後整備を予定しています。

こちらについては事業費の増が発生しておりますので 14 ページをご覧ください。結論としては 1.3 億円弱の増額を予定しております。増額の要因としては、連絡通路の整備にあたり、基礎形式の変更ということで元々は地盤改良を予定してましたが、設計の精度が向上したことで杭基礎に変更しております。また、盛土を予定しておりましたが、この盛土が現況施設に影響を与えるということで、軽量盛土に工法を変更したことにより事業費が増額になっています。また、整備箇所が背後地に道路があり、長期間全面通行止め、または片側通行止めによる措置が必要ということで、地元との協議の結果で交通誘導員の配置など経費の増が発生しており、増額要因になっております。事業費増の内訳については以上になります。

15 ページをご覧ください。同様に水辺整備事業ということで、今回新規で事業を立ち上げた場所になっております。箇所別の名称が上尾市かわまちづくりという事業です。こちらの整備内容としては、荒川の堤防整備と併せて、側帯や階段、または水辺に下りられる、近付ける坂路の整備ということで事業を計画しております。こちらは令和 7 年度からの新規着手の事業となりますので、現在の進捗はございません。

16 ページ以降はご説明させていただきました事業の投資効果ということで、B/C の算出をさせていただいております。

17 ページ以降が個別箇所ごとの B/C の算出結果となっております。自然再生事業の荒川中流部地区におきましては B/C が 3.3 という結果を得ております。また、次の 18 ページは同じ自然再生事業の荒川下流地区は、B/C が 14.2 という結果が得られております。また、水辺整備の継続事業として板橋区のかわまちづくりについては B/C が 114.7 という結果が得られております。また、20 ページ、こちら新規の立ち上げになりますが、上尾市のかわまちづくりで B/C が 47.2 ということで結果を算出させていただいております。

21 ページが総合水系環境整備事業トータルでの投資効果ということで、右側が令和 4 年度前回評価値の評価結果、左側が今年度の評価結果となっております。今年度水系全体の B/C は 14.6 という結果が得られております。ちなみに前回令和 4 年度の B/C については 13.5 という結果を得られているという状況になっております。

22 ページが、ご説明したものを一覧表に取りまとめたものになっております。トータルでは 14.6 という結果を得ております。

23 ページがコスト縮減の取り組みで、事業実施の中でコスト縮減の取り組みのご紹介です。荒川下流地区では自然再生の取り組みにおいて、かごマットの中詰め材を処分予定のコンクリート殻を活用することによって、約 1700 万円の縮減を図っております。また、上尾市のかわまちづくりにおいては、盛土を購入土で予定していたものを、一部ストックヤードの土砂を有効活用するというので、こちら、約 1800 万円のコスト縮減を図るという取り組みのご紹介になっております。また、維持管理においても、地元の自治体、市民と協働によって、写真にありますような取り組みを実施してコスト縮減に努めるとともに、河川環境の維持を図っている、という状況になっております。

24 ページが、今回の再評価において関連自治体からの意見聴取結果となっております。まず東京都さんからは地元との調整やコスト縮減を十分行いながら河川環境整備事業を継続されるようお願いする、といただいております。埼玉県さんからは、地元との調整やコスト縮減に十分留意しながら工期内に完成させるようお願いする、というご意見をいただいております。

25 ページが、今後の対応方針案ということでまとめさせていただいております。一番下段の対応方針原案として、事業継続ということで、また、新規についても実施することが妥当、という対応方針案とさせていただいているものです。

26 ページ、27 ページについては、参考としまして完了箇所の資料を添付させていただいております。こ

ちらの説明は省略させていただきたいと思います。説明は以上になります。

<田中委員長>

どなたからでも結構ですので、ご意見がある方は挙手のうえ、質問等をお願いいたします。

<知花委員>

ありがとうございます。P11の荒川中流部の湿地環境の再生について、これを見る限りでは維持管理費の内訳の詳細は不明ですが、CVMで回答された皆さんが期待しているのは、整備後のイメージが継続することだと思います。ですが、ワンドは草刈りなどの管理をしていた場合でも、洪水で埋まるなどして維持管理にお金が掛かりますし、掘り直すなどの整備を行うにしても、一度実施している事業を再度実施するのは難しいと思われます。ワンドと湿地環境を整備するとして50年間の維持管理の経費をどう見積もっていますでしょうか。

<村田荒川上流河川事務所長>

現状の維持管理の計画としては、高水敷の除草などを考えています。50年間維持しなければいけないため、地域の皆さんと協力をしながら保全を考えていきたいと思っています。

<知花委員>

埋まってしまった場合の要望を受ける事例がありますが、その場合の実施は可能ですか。

<村田荒川上流河川事務所長>

今回審議の総合水系環境整備事業費とは別のものですが、維持管理の予算にて実施していきたいと思っています。

<知花委員>

わかりました。その点は是非気を付けて進めていただければと思います。

<浅枝委員>

有難うございます。国土交通省の英語略称はMLITでそのTはツーリズムということもあるのでお願いしたいのですが、インバウンドの話題が頻繁に出ますが、荒川の上尾など外国の方はご存知なく、アクセスからして難しいものの、もっと呼び込めると思います。荒川沿川に限りませんが、問題は、自治体の方がインバウンドの呼び込みに後ろ向きといえることもあり、うまく自治体とも協働することで前向きに考えていただくようにできないものかと思います。例えば、ネットなどにしても、多くの自治体で取り組めていないため、旗振りを国交省でできないものでしょうか。

<村田荒川上流河川事務所長>

上尾市のかわまちづくりの例としては、来訪者の方に対しての利便性向上も計画に位置づけております。国で行う側帯部、階段部とともに市においても施設の整備を計画しておりますので、市ともインバウンドについての取組みを相談させていただき、進めて参りたいと思います。

<浅枝委員>

是非お願いしたいと思います。首都圏の河川が外国から人を呼べなければ、日本の川には誰も来ないともいえるので、よい対策を考えていただきたいと思います。

<堂本委員>

上尾のかわまちづくりの話題も出ていますが、「どろいんきょ」というインパクトのあるお祭りがあり、荒川とのつながりもあるお祭りで、インバウンドも見込めると思います。市も考えているとは思いますが、素晴らしいものをアピールするとよいのでアプローチしていただきたいものです。また、三ツ又沼ビオトープもあるので、維持管理の観点でも良い情報発信にもなる場所ですし、丸山公園でも自然再生を行っていて環境面の関心が高いため、上尾市が意欲的になるようにディスカッションしていただきたいと思います。板橋区かわまちづくりでも、東京都さんからのご意見で、多様な水辺利用が楽しめ、水際の自然が存在する貴重な空間、とありますが、かわまちづくりの中で荒川下流部の自然をアピールしてもらえればと思います。

<村田荒川上流河川事務所長>

有難うございます。上尾市のかわまちづくりとしましては、これから事業を進めていくうえで計画を具体化していきますので、いただいたご意見を踏まえて検討したいと思います。

<菊田荒川下流河川事務所長>

有難うございます。板橋区のかわまちづくりでも、板橋区かわまちづくり基本構想を策定しており、区内の利用者とともに地域外からも来ていただくことを予定しています。計画エリアに自然地もありますので、そこに立ち寄っていただけるように板橋区とも協働して進めたいと思います。

<知花委員>

堂本委員のお話から、連絡通路と板橋区の生物生態園のエリアは一带と思われますので引き続き整備していただければよいと思います。関連して、事業評価において一般的には定性的評価として、Bには含まれない事項が付記されるものでして、今回十分にB/Cが出ているので問題ないですが、市民へのアンケートから拾い切れていない効果を一度見直すと、新たな視点が出てきて良いと思います。またアンケートで捉えられないが、10年後、20年後に効果が見込まれるものなど、定性的効果として挙げることで事業の効果を見直すことにもつながると思いますので、この資料に直ちに追加していただくものではありませんが、今後取り入れていただくように検討いただければと思います。

<藤原河川環境課長>

ご意見いただき有難うございます。今後ご意見をもとに、そのようにわかりやすい記載に努めるなど、対応を検討したいと思います。

<手塚委員>

二点コメントさせていただきます。一つ目、25ページについて、今回の箇所のように、B/Cが1を超えていれば良いと思いますが、コスト削減は一定の質を保ちながら、また創意工夫によりできることが望ましいため、適切なコスト削減に努めていただきたいと思います。もう一つは、CVMについてです。CVMの値は大きく出がちですが、それに加えて、800名のアンケートを答えた方へ事業を認識いただくうえでも、CVM

はアピールになるので、手法として良いものと考えています。単なる評価だけでなく、意味を意識しながら進めていただきたいと思います。

<藤原河川環境課長>

コスト削減は質を保ちながら引き続き検討していきたいと思っています。CVMについてもいただきましたご意見を参考に対応して参りたいと思っています。

<鈴木委員>

P9の河川空間の利用者の推移のグラフは、R1は新型コロナウイルスの影響もあろうと思われませんが、その後はどのように推移していますか。定性的な評価の部分への影響もあると思いますが、河川空間の利用としてコロナの前後で何か違いがありますでしょうか。また、P17の中流は対象範囲が8km圏、その他は3km圏の受益としていますが、なぜ対象が広いのか、支払い意思額に対してこのエリア内に居住する人口により費用が算出されてくると思いますので、この顕著な違いの理由をどのように認識していますでしょうか。なお内容を否定しているものではありません。

<村田荒川上流河川事務所長>

空間利用の推移については、5年に一度の調査となっており、令和6年度に調査中ですので、結果が出ましたら報告いたします。受益範囲につきましては、鴻巣市、吉見町、北本市が範囲となっており、特にこの市町は、これまでの活動の中で事業内容が多く浸透しているものと思われれます。特に6km圏内には鴻巣市のコウノトリ野生センターがあり、地域の認知度が高い結果になったと思われれます。

<菊田荒川下流河川事務所長>

ご指摘のとおり、令和元年の台風の影響でグラウンドが利用できなかったことを説明いたしましたが、グラフにも記載がありますとおり、スポーツの利用と高水敷での利用の減少が、他の箇所や他の利用に比べ顕著となります。現状調査中ですが、感覚的には利用者はコロナ前に戻っているものと思われれます。

<田中委員長>

荒川中流部としては流域を越えたネットワークもあるので、その場合はB/Cの評価をどうするか、そういった議論も必要かと思われれます。先ほど知花委員からもありましたとおり、定性的なことも併せてB/Cを考えていけばよいのではと思います。

<田中委員長>

他によろしければ、以上までとさせていただきます。荒川総合水系環境整備事業の対応方針として継続してよろしいでしょうか。

<委員>

特になし。

<田中委員長>

継続としたいと思います。議事が全て終了しましたので事務局へお返しいたします。

<金子地域河川調整官>

田中委員長有難うございました。また、委員の皆様におかれましても長時間に渡りまして有難うございました。これにて、令和6年度第1回荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会を終了とさせていただきます。本日は有難うございました。

<一同>

有難うございました。

(終了)